

平成21年9月15日(火曜日)

(会議第3日目)

応招議員

1番	村越比佐夫	2番	山下伊都子	3番	宮地葉子
4番	田辺守	5番	西村将伸	6番	坂本あや
7番	矢野昭三	8番	浜田純一		
10番	森治史	11番	門田仁和子	12番	西村策雄
13番	前田寿郎	14番	小松孝年	15番	下村勝幸
16番	竹下芙佐雄	17番	大西章一	18番	明神照男
19番	山本久夫	20番	小永正裕		

不応招議員

9番 畦地一弘

出席議員

応招議員に同じ

欠席議員

不応招議員に同じ

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町長	下村正直	本庁副町長	澳本造
佐賀副町長	山本牧夫	本庁総務課長	植田壯
佐賀総務課長	藤本岩義	税務課長	松本輝雄
住民課長	米津芳喜	大方健康福祉課長	矢野健康
佐賀健康福祉課長	大塚一福	産業振興課長	松田二
海洋農林課長	谷口明男	大方まちづくり課長	松田博和
佐賀まちづくり課長	中島一郎	会計管理者	野並純
教育長	松並勝	教育次長	坂本勝

本会議に職務のため出席した者

議会事務局長 酒井益利

書記 宮地愛

議事日程第3号

平成21年6月15日 9時00分 開議

日程第1 一般質問

## 議 事 の 経 過

平成 21 年 9 月 15 日

9 時 00 分 開会

議長（小永正裕君）

おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

日程に従って議案審議を行いますので、よろしくお願い致します。

初めに、諸般の報告をします。

畦地一弘君から欠席の届け出が提出されましたので、報告しておきます。

これで諸般の報告を終わります。

町長から発言を求められております。

これを許します。

町長。

町長（下村正直君）

本議会もあと 3 日を残すところとなりましたが、本日も皆さんには大変お忙しい中、このようにご出席を賜りましてありがとうございます。

今日も一生懸命答弁をさせていただくつもりでおりますので、よろしくお願いを致します。

議長（小永正裕君）

これで町長の発言を終わります。

日程第 1、一般質問を行います。

順次発言を許します。

下村勝幸君。

15 番（下村勝幸君）

おはようございます。

それでは、通告書に基づきまして質問させていただきます。

今回は、もう 1 点のみです。現在までの町政運営の総括と今後の重点項目ということで、これにつきましてはもう町長のみにお答えいただきたいと思います。

前議会において、次回、町長選挙への出馬表明があった。そこで伺いたい。

1 番目としまして、選挙公約は、町長自身どの程度達成できたと考えておられるのか。

2 問目としまして、達成できていない部分があるとするならば、その問題点や解決方法は見つかっているのか。

3 点目としまして、今後、力を入れたい重点項目は何か。具体的施策を伺いたい。ということで、3 つ挙げました。

で、今回のその質問をするに当たり、私の中で非常に考えたことあるんですが、すべての会社関係には会計年度というものがあります。その会計年度のタイミングで、各会社はどれだけの業績が上がったのか、また、その会社は何を目的として頑張っている会社なのか、その他もろもろ、そういった現状の分析をします。で、それによって、自分なりにいろいろな反省をし、その会社の中の反省を行い、また、社員一同ともいろいろな議論を交わしながら、次の、次年度へ向けての目標をつくっていくのが大体一般的だと思います。

で、行政も、私はそういった意味で絶対その時期が必要であり、今回が、その町長が次回への出馬を表明したというこのひとつのタイミングが、私はその時期に当たっているのではないかと思い、この質問を取り上げました。

で、今まで私、町長に対して一般質問を幾つか行ってきましたが、今回のこの私の一般質問が、今までの中で一番私は厳しい質問になろうかと思えます。といいますのは、自分で自分の採点をするというのは、本当に難しいものだと思うからです。

で、私自身も議員になって、日々考えることがあります。それは何かといいますと、自分は本当にこの議会、この議場の中で必要とされている議員なのかどうか。私は町民の、本当にその付託に応えるべき、頑張っている、応えられるようなことをしている議員であるのかということを、本当に常に考えています。

そういった意味で、町長が今までのその選挙公約を通して、自分なりに考え、そして、この町をどういう町にしていくのか、本当にそのビジョンをはっきりと示しながら、きちんとこの町をその方向に向かって引っ張っていつているのか。それが、今、私の質問のすべてだと思うからです。で、これを答えるのは、本当に難しいことだと思います。

で、選挙公約は、町長は10個の項目を挙げられておりました。その中には、昨日の先輩議員の質問の中にもあったように、その行財政改革であったり、また、地域経済と雇用の関係であったり、もちろん、今回の地震が想定される中での生命と財産を守る問題であったりとか、そういったことで10個ほど、確か項目を挙げられていたように思います。で、それが本当に、この町民が望む目標であったのか。町長が出したその公約が、本当に町民が望むような公約であったのか。そういったことも含めて、今、町長は総括する時期に来ていると思います。

で、町長がよく言われる発言の中で、今、私は評価されなくても、後年、その私に対する評価が付いてくればよいというお話を時々されることがあります。私は、その評価の仕方も、もちろん一つはあろうかと思いますが、一番考えるべきことは、今現在町民が、それでは困ると思っている町民もおるという事実を、町長ははっきりと知らなければいけないと思います。後年になってしまえば、本当に困ってしまう町民が、私は本当にいると思います。ですから今現在、何を、今このタイミングで絶対に行なわないといけないのかというのは、町長自身が判断し、そのタイミングで確実に、着実に、行っていかねばならないと思います。

今まで、私いろいろなお話をしましたが、そういったことも含めてこの選挙公約、町長がどれぐらい自分で自分を自己評価されているのか。また、できていないことがあるとするならば、何を、どういう理由でできなかったのか。また、それはどうすればできるのか。また、時代とともにその公約は必要となくなったものなのか。そういったものを含めて、町長の言葉をいただきたいと思います。

また、最後に、次のときに、また町長としてというお話ありましたので、ならば、どこに力を入れていきたいのか。その3点について、まずお聞かせいただきたいと思います。

議長（小永正裕君）

町長。

町長（下村正直君）

それでは、下村議員の、今までの町政運営の総括と今後の重点目標というご質問にお答えを致します。

まず、議員のご質問の背景と申しますか、思いというものを言っていただきましたが、その件につきましては真摯（しんし）に受け止めて答弁をさせていただきます。

まず、10項目のまあ政策目標についての達成度ということで、私の考えはということですが。その前に、まあ新町黒潮町の町長に就任して3年と6カ月近くですが、ぐらいいなろうかと思えますが、私の思いとしては

合併前の1年7カ月、旧大方町の町長であったときもですね含めた5年間というものが、私のまあ総括の対象ではないかというふうに思っております。といいますのは、旧大方町の町長に就任すると同時に、また、就任そのものが合併の是非を問う選挙でもありましたし、就任直後から、合併の議論の渦の中でやってまいりました。そして、私もひとつのこの地域が生き延びていくためというような思いの中で、自ら先頭に立って、合併を成就させたというふうな思いがございます。

そして、18年の4月に新町黒潮町の町長選挙に立候補するに当たって、先ほど申し上げましたように、行政における各分野の課題や私の思いを、10項目にわたって政策目標として掲げました。まあいずれ、すべてが数値で測れない、表せないようなこともございますので、具体的な数値目標等を示したものではありませんが、どの程度達成できたかとのご質問には、そういった意味で大変お答えしにくい部分もあります。また、評価については、本来住民の皆さんがしていただけるもので、私自身から何点であるというようなことは、なかなかお答えしにくいということになります。

まず、合併そのものが、すべての皆さんが賛成というわけではありませんでしたので、その調整と申しますか、そのことに重きを置いてやってまいりました。それで、この10項目の政策目標以外に、融和ということは何度も口にして、旧両町の住民の皆さん、あるいは議会の皆さん、職員、すべてにおいて溶け合って1つになるということが最も眼前の目標であるというふうな思いでやってまいりました。

町長としては、当然ながら強いリーダーシップを求められることがあるわけですが、何よりも合併に伴う混乱を避けたいとの思いで、いわば安全運転というようなことであったかとも思います。また、ますます厳しさを増す財政事情等を考えまして、より慎重な行政執行が欠かせなかったというふうにも思っております。まあ、そういった中で、合併の効果を早期に実現しなければならないとのジレンマもございました。そして行政改革大綱、あるいは集中改革プランに乗って、少しずつ前進をさしてきたとの思いがございます。そういった意味では、現在に至って致命的なしこり、あるいは大きな対立というものは回避できたのではないかというふうに思っております。いずれにしても、この融和というものについては、大変時間を要するとの実感もあります。そして現在では、黒潮町総合振興計画が策定されまして、これは、いわば手作りといいますか、町民の皆さん、あるいは職員の大変な努力によって、多くの意見を反映させたものになったというふうに自負をしております。

まあそういった意味で、新町の方向性と、まあ議員の言葉の中にビジョンという話もありましたけども、私はごく簡単にですね、まあ国の政府に対しても、国民はビジョンを示せとか、すぐそういう言葉が出ますけども、実際に、なかなか理想的なことは言えてもですね、今の社会状況、あるいは今の我々の自治体の置かれた状況の中で、そういう理想ばかり掲げるようなものがビジョンであろうかと思えますし、私は翻って、この手作りで作った黒潮町の総合振興計画こそがですね、一定、町のビジョンであり、進む方向性というふうにとらえております。

そういった意味で、この合併新町の方向性という意味で、基盤づくりはかなりできてきたというふうにも思っております。それは、合併そのものの効果でございますが、これは、これもなかなか測り切れない部分があります。また、それぞれの旧町の周辺部では、合併によって良くなったことは一つもないというふうな声もあるようでございます。それは、それなりに受け止めなければならないと思っておりますが、ただ、組織機構の改革等によって事務事業の効率化、あるいは財政面の一定の安定、そういったものは県の一般的な、このたびの平成の大合併の総括の中でも表れておりますので、私どもの黒潮町でも、一定そういうことは言えるのではないかと考えております。

まあそういった中で、その最も基盤の部分でございますが、懸案であった大方改良も、私が就任した時点では大変膠着(こうちやく)した状態で、切り込むところが見いだせないというような状態でありましたけども、

本当にこの件については、ここに今質問をされておられる下村議員からも、町長はこれを何とかしなければ、町長をする意味がないというようなぐらいの厳しい言葉をいただいたこともありました。ほんとに内心苦しい思いは致しましたが、何とか議員の皆さんや町民の皆さんのご助力も得まして、去年の夏、まあ事実上の再着手というような形になりましたので、これもひとつの方向が定まったというふうに思っております。

また、それに伴う庁舎の移転等々、大きな基盤づくりも方向性が示せたというふうに思っております。

また、かねてより計画されておりましたことではございましたが、立地、用地の場所等で大変時間もかかりましたけども、佐賀保育所も来年の春には統合保育所が開設と。また、既に中央保育所は本年度より開設しておるところでございます。

そして、最も将来的な社会資本と申しますか、社会基盤としての情報通信基盤整備事業、これについても、大変まあお金の問題等々でご心配される向きもございましたけども、昨今の県の各市町村の状況を見ますと、私は一定しかるべき時期に大いなる決断をして進めてきたことは、間違いではなかったというふうに思っております。とはいいいましても、この事業につきましてはこれからが大変重要な場面を迎えるわけですので、慎重に、かつ精力的に進めていきたいと思っております。

まあ、10項目につきましては、時間がかかりますのでちょっと簡単に、まずは答弁させていただきたいと思っておりますが、まあそのような背景の中で、行財政改革、まず挙げておりました。アウトソーシング等により行政のスリム化を図るとともに、町長はじめ役職員の報酬、給与体系の見直しを検討し、住民と痛みを分かち合うような行政の在り方を目指しますということを示しておりました。なかなかこの点につきましては、行財政改革そのものは、先ほども申し上げました大綱等によって強力に進めてきたつもりはございますが、アウトソーシング等については、あまり大きな成果を挙げるには至ってないんじゃないかというふうに思っております。まあこれも、相当、道中検討を致しましたけども、まあ今、児童館等々のアウトソーシングが進めておりますけども、もっと大きな形でのアウトソーシングというようなものが実行できなければ、行財政改革に即つながらっていくということにはなりにくいと思っております。基本的には、今後の検討課題ということになるかと思えます。

次に、地域経済と雇用ということでございますが、地域経済の再生と申しますか振興につきましては、ここ2、3年、議会の議員の皆さんのご質問にも本当に多く、その質問が寄せられました。何とか町長がするべきではないか、農業、漁業について何とかするべきではないか、という質問が相次ぎました。私もこの点につきましては、町の基幹産業でありますし、本当にこの一次産業の衰退というものは、町の存在意義すらなくするというふうに思っておりました。いろいろ取り組みを重ねてきて、まあ黒砂糖であるとか、いろいろな商品開発等も少しずつ芽を出しかけてきたというふうな思いがございます。また、これについては県の産業振興と相まって、これからの事業展開を進めていく用意をしておるところです。

まあ、3番目に農林業の振興ということで、今の地域経済と農林業の振興ということと一緒に答弁をしている格好になります。まあ、農林業に対する思いということで、今、この農林漁業が衰退してしまったら、もう取り返しつかんというような思いがあります。昨年原油高騰の際にも、私はそのような思いから、また、以前にも申し上げましたけども、高知県の漁業、あるいは農業そのものが大変そのコスト面で、油に依存する率が高いと。なお、黒潮町においては、その高知県の中でも特に高いというふうな認識をしております。そういった意味で、これはほんとに実際の助けにどれだけなるかは別として、農業、漁業の皆さんを励ますという意味で、思い切った姿勢を示さなければならないということで、対策本部を設置致しまして、今、去年、今年というふうな形で重油の価格補てんといいますが、そういう対応をさせていただいております。まあ、農林漁業を取り巻く環境というのは年々厳しい状況がございまして、これからいろんな面で細やかな支援も欠かせない

というふうに思っております。

それから地震対策でございますが、生命と財産を守るということで、これはまず自主防災組織の拡充強化ということであつておりました。それは、ほぼ全域に達成できた状況にあります。また、大きな1つの取り組みとして黒潮消防署の移転ということがございますが、検討委員会の方で場所を選定し、今、その用地買収とございますか、用地購入の交渉をしている最中でございます。まあこれも全体としてですね、取り組みが決して遅いと思いませんでしたけども、まあ相手があることでございますので、現在まだ用地交渉というようなことで、総体的に遅れておるといふような認識をしております。

次に、高齢社会への対応ということで、介護予防や健康づくりを重点課題と位置付け、住民の皆さんの協力を得て、健康で生きがいのある高齢社会の実現を目指します、というふうにあつておりました。これも、それぞれの制度、事業等々を積極的に組み入れながら、その介護予防や健康づくりといったことを進めておりますが、大変、数値に表して示すことのできない内容でございます。

しかしながら、担当等にはですねそのへんをいろいろな事業で、こういった健康づくり等を行っておりますけども、町民にとっては役場は1つやということで、もっと町民に見えるような、そういう事業展開ができないか。また、3カ月でも4カ月でも取り組んだ事業については、その効果というものがデータとして表すことができないか、そういう検討をしてくれというふうな支持もしておるところでございます。

今日の以降のご質問の中に、集落の支援等についてのことがございますけども、実は、去年まで限界集落というのが、まあ施設を除いて63の黒潮町の集落のうち、2つの地区が限界集落ということでしたが、この8月31日の集計結果では、それが一挙に7地区になりました。そして、55歳以上の人口が半数以上に及ぶ準限界集落は42集落ということで、これは大変驚くべき数字というふうにとらえております。

まあこういったことから、高齢化社会への対応と集落に対する支援ということは、私はもっと具体的な次の手を差し伸べるといいますか、一步踏み出す時期に来たなあという実感を持っております。

あと、教育につきましては、大方高校との連携を起爆剤に、小中高連携により、地域の教育力を生かした学校づくりを目指します、ということであつておりました。これは、正直申し上げまして、こういう取り組みはその後、むしろ縮小致しました。反省もしておりますが、当時の取り組みの背景がございましたので、これは大変ユニークな取り組みであるというふうな認識から、この事業を伸ばしていきたいと思いましたが、その後いろんな関係機関、あるいは関係者の交代等もあり、まあ私の努力が最大の原因であろうかと思えますけども、こういった取り組みはその後進めることができませんでした。

次に、集落支援の点につきましては、先ほど申し上げたように、これから大変重要な課題であろうと、さらに一步踏み込んだ施策をと考えております。ただ、合併して今年になって、まあ去年の末からですか、区長会が統一されて一本になったということで、これは大変大きな意味があるというふうに思っております。

まあこういった区長会等を通じて、あるいは職員の地域担当制等を通じて、この限界集落、あるいは準限界集落のこれからの在り方等を模索してまいりたいというふうに思っております。

職員の育成ということで、8番目に挙げました。これは、ちょっと恥ずかしいような表現を致しました。

読んでみますと、住民のために働く誇りと自信と哲学を持った職員を育成し、住民が親心で役場を見守ってくれるような、ぬくもりのある行政と住民の関係を目指します。これについては大変、職員の職場環境、あるいはいろんな意味で厳しい状況がございます。1つは定員管理の上で大変、特に一般行政職の人数を減らしたことによって、職員に大変な荷重が掛かっているんじゃないかと思われれます。そんな中で、十分な残業手当もないまま、日夜残業をして頑張ってもらっているというふうなこと、あるいはいろいろな取り組みを通じて、今の地域社会の厳しさを認識する、あるいは職員として、それに対してどうあるべきか。こういった点では、

随分意識も向上してきたというふうに、手応えを感じておるところです。

9番目に、子育て支援と保育園の統合でございますが、まあ保育への統合によって、保育の質の拡充を図るということでございますが、これは先ほど申し上げましたように、計画どおり進めておるところでございます。

最後に、観光資源の保全と交流人口の拡大。これは随分、地域の住民の皆さんの取り組みによるところが大きいわけですが、年々、黒潮町のこの観光と申しますか、地方としての資源の豊富さというものが認識されつつあるというふうに思っております。まあこれについては、入野松原の保全というようなことも、雇用対策の関係もありまして取り組むことができました。今後も、こういった観光資源の保全整備、あるいは地域でそれぞれ取り組んでいらっしゃる皆さん方のグループの皆さんとかを支援を申し上げながら、観光というものをもっともっと拡充していきたいというふうに思っております。

まあ、10項目についての、非常にあいまいな表現で申し訳ございませんですけども、今の状況とまいでございませぬ。

来年度以降、まあ私が先の議会で再度の出馬を表明致しました背景には、そのときにも申し上げましたけども、合併をして一定の方向性、基盤というものはできつつある。しかし、これからがひとつ本番であるというような思いがまずあります。同時に、目下のところ経済対策等々で大変多くの事業が、今年、来年にかけて用意されております。これもですね、ほんとに1つ間違えば、昨日のご質問等もありましたように、町の財政に大変な影響を及ぼすということで、綿密な計画の下に、町の財政に影響のない範囲で、どうしても必要な事業を前倒しでという基本で取り組んでおりますので、それも計画どおりきちっと仕上げていきたいというふうないろいろな思いがまずあります。まあ、失礼な言い方になりますけども、人には任せられないと、自分でやるべきであるというふうな思いで、表明を致したところですよ。

まあそういった中で、来年度以降のですね取り組みとして、まあ2、3、力を入れていきたいと思ふことは、基本的には引き続き行財政の健全化を図りながら、先ほど申し上げましたような計画を着実に実行していくということがまず1つ挙げられろふと思ふます。そして、産業の振興、あるいは観光事業の拡充、また、大きな思いとして、先ほど申し上げております、地域集落の支援というものを具体的に進めていきたいというふうな思ふております。

それから、地震対策といひますか、も、ハード面はなかなか厳しいものがありますけども、自主防災組織をはじめ一定取り組んでいました。これも、来年度以降には早い段階で一定のこう確立といひますか、防災対策の一定の確立を示したいというふうな思ふております。

まあ、行政のことですので、大変多くの分野、多くの事柄を申し上げましたけども、最後に、私の、今褒められようと思ふなという思いをですね、いい意味でもう一度申し上げて。まあ、かつての豊かな時代でしたら、町長もですね思い切った事業をやつて、こう注目を引くというようなこともあつたかと思ひますけども、私はむしろ着実に、将来を見据えた事業をすること、取り組みをすることこそが、もう今求められておるといひ思ひで、まあ、今褒められようと思ふなということ胸に言ひ聞かせながら、やつていきたいと思ふております。

以上です。

議長（小永正裕君）

下村君。

15番（下村勝幸君）

今、公約に出た10項目をですね、ほんとに詳しくお話しいただいたんですが。

その公約のですね内容を聞きながら、ずっとこう考へてたんですが、自分の中でですね、町長がせつかくこ



こまでの出したそのビジョンがですね、本当にこう住民の方たちにこの内容が伝わっているのかなというのをですね、ものすごく感じます。

で、町長は以前、こういう発言もされたがですけど。すべての基本は、その経済にあるというようなお話をされたことがあると思います。で、この内容は、まあ普通一般の家庭に例えてみると一番分かりやすいんですが、その家の中が、例えば奥さんと、また子どもたちと仲良くやっても、その家庭の中のその経済がどっかで狂って、そこの中にひずみが生まれたり、うまく回らない状況ができたときに、その家庭自体のですねそのバランスが崩れて、うまく回らなくなっていく。それが、今現在ですね、私は黒潮町の中に、まさしくそれは起こってきていることじゃないかなあというふうに思うわけです。

ですから、一番最初に冒頭お話ししたようにですね、その町民が本当に望むのは一体何であるのかっていうのをですね、町長自身がはっきりと認識されているのかどうかというところがですね、一番、今回聞いてみたいところかなと、私の中では思っています。

特に、次回に、例えば出るというお話があるのであればですね、私は町長に1点お聞きしたいのは、本当にその現場に出てですね、一人一人の声を聞いているのかどうかということですね、再度聞きたいと思います。

私はいつも、これは自分自身もいつも思うことなんですけど、現場がすべてだと思っています。で、現場というのはその、例えばこの行政の、役場の中もそうですけど、幹部職だけではなくてですね、本当に日々暮らしていく、日々行政の中で仕事をしているその課員の人たちが一体どういうことを思っているのかとか、どういふふうに自分たちのその職場環境を良くして、で、地域のために、町民のためにどういふふうにやろうとしているのかということや吸い上げたり、また、あるときは、ほんとに市場の人たちがどんなふうに思いながら、今仕事をされているのか、農家の人たちがどんな感じでやっているのかというのを、町長自身がそこに行ってですね、足を運んで、その生の声を吸い上げながら、本当に自分のものにできているのかどうかということやものすごく感じます。

特に、例えば、よく先輩議員がお話しされますが、例えばカツオの問題があります。で、カツオも昨日でしたかニュース見てましたら、本当に今、取れなくなっているそうです。で、しかも、小ぶりになっているそうです。で、その原因の中には、例えば巻き網の船団が、ほんとにフィリピンとか南の方でまとめて取ってしまったって、こちらに上がってくるカツオが本当に大きくなれない状態のまま来るとか、いろんなお話をこう聞くときあります。

で、あれなんかは、本当にここの黒潮町は、佐賀という地域があのカツオで有名なだけ、それを後押しするような施策を、本当はこの町が先頭を切ってやるべきものじゃないかなというふうに思います。そういったのは、その現場に足を運んで、その現場の中の声から生まれてくるものじゃないかなと思います。

これは、あまりにも国際的で、大きな問題で、自分たちの手には負えないというようなお話になるかもしれませんが、私はそんなことはないと思います。なぜならば、この現場がそれを生きがいとしているからです。漁業者の人たちも、それで生活をしているわけです。そういった内容が、農業の分野でもおんなじことだと思います。コメの問題があったり、昨日も出たイノシシの問題があったり、その地区地区において、いろいろな課題がたくさん山積していると思います。そういった声を、本当に町長が自ら足を運びながら、現場の声を聞きながら、自分の本当に血となり肉となるような形で、この自分がやっついこうとする、先ほどビジョンという言葉を使ったら、ちょっと漠然とし過ぎているというお話もありましたが、その聞いてきたものをもっとより具体的に、本当にみんなが望むような形で、分かるように掲示をできているのかどうかというところがですね、私は非常に疑問を感じます。

今回の町長の発表の中で、次年度もというお話がありましたので、私はその点が一番大事なことであって、

町長がその点がかもしもそれができていない、やろうとしていないのであるならば、町長はそういう部分では、残念ながら抜けている部分があるんじゃないかなと私は思っています。

町長、どうでしょう。私が今、こう偉そうにいろんなことを言いましたけど、その点含めて、もう一度お答えいただきたいと思います。

議長（小永正裕君）

町長。

町長（下村正直君）

先ほどの答弁の中で、ちょっと思いが抜かっておりましたけども。議員の質問の中に、まあ一般の企業であると、その決算時期といいますか、一定の区切りでその今の現状を分析して、次へつなげていく反省にもし、また計画に反映させていくというような話がありましたが、まさに行政の方もですね、そういったことを、まあ町長であれば4年間、あるいは年度年度、あるいは何カ月というような単位でするねやるほど、その計画性というものが、信ぴょう性といいますか、現実性を増してくるわけですので、それは留意をしたいと思ってるところでございます。

ただ今、現場に出て行って、現場の声を把握しておるかというご質問ですが。私は高知県下でですね、今、首長が34人おるわけですけども、まあ正確な数字じゃないですけども、80パーセントから、ややもすると90パーセント近くは行政におられた方が、今、首長の座に着かれております。

私は、そういう意味では全く外野でですね、大方町の町長の選挙に出るといふふうに表示をする1週間前には、湊川でヘルメットかぶって、ユニボに乗っておったということでございますので、まあ、こと農業にかんしてはですね、現場の声は十分に把握しておるつもりでおります。ただ、漁業にかんしては、そういった長い年月の間の漁業に対する接触というものが少なかったせいもあって、あまりよく分かってないと言われても仕方がないんじゃないかと思いますが。

ただ、いろいろと私なりに聞いたり調べたりする中でですね、この佐賀の有数のカツオの漁港がですね、十分にその機能を果たしていないと。それは、佐賀で水揚げされ、佐賀県で餌を仕入れて、また乗り出していくというような基本的な部分がですね、今や全然別のところでそういうことが行われておると。これは、行政がもっともっとそのへん、基本的な部分での支援等をするべきではないかというふうにも思っています。

まあ、いずれにしても現場の声というのは、議員おっしゃるように大事なことでありますので、真摯（しんし）に反省もして、これからもっともっとそういうことに気を配っていききたい、また、耳を傾けていききたいというふうには思っています。

以上です。

議長（小永正裕君）

下村君。

15番（下村勝幸君）

もう1点だけ。

さっきのですねお答えの中に、経済の話をちょっと入れたんですが、その件でですねもう1点、お聞きしたいことあります。

先ほど、町長の公約の中の一番最後にですね、その観光資源の保全と交流人口の拡大ということがあって、で、それについて、まあ資源の多くがこの地域にあることは認識されているけれども、今後もその拡充を図っていききたいというお話はありましたが、私はですね、本当に今言ったように、その一次産業がどういう形で進めば、本当にこの町にとっていろいろな利益をもたらしてくれるのかというのがなかなか見えにくいこの時代に

あって、この、観光であったりとか、自然であったりとかそういった部分が、我々が一番その効果を、今の状況の中で出しやすいポジションにあるもんじゃないかなと、私は逆にそう思います。

ですから、町長が本当に力を入れるべきものは、今は私はこれじゃないかなというふうに思います。以前からこの話は何度も何度もしてますけど、これだけの交流のスポーツ施設があったり、また、これだけの自然が残されたこの黒潮町の中で、このものを完全に生かし切る体制自体が、私はその行政の中にもできていないし、そして、地域との連携も残念ながらできていないし、本当にそれが迎えられる形になっているのかどうかというのを非常に感じます。

で、地域の人たちがやはり、町長、一番望んでいるのは、その経済の部分だと思います。で、働ける場所があったりとか、そこの中で何とかやっていたりける形を、目に見える形で、町長がこれだけのことをやって、こういうふうに行っていくよという、そのいわゆるきちんとしたビジョンがやはり見えないと、そのリーダーにこの町を本当に任して大丈夫なのかどうかということを、大変みんなは不安に思います。

今回は、民主党の場合ですね、マニフェストというものを出しながら、私たちはこういう町をつくります、こんな国をつくっていきたいということを精力的に訴えてきました。で、政権が交代するという、本当に日本の国の中でも、その歴史上類を見ないような形で転換がされようとしています。

で、町長はそういった時代の中であって、本当にこの町をどういうふうにしたいのか、どんなふうに変えるのかということも、もっとより具体的に、もっとより町民が自分のものとして理解できるような形で示すのが、今からの、私は責任であるし、それができなければ本当に駄目だと思います。

どうでしょう、町長。そういった意味で、きちんとしたそのビジョンなり、マニフェストなりが本当に示せるような政策を出せるのかどうか。その点について、最後にお聞きします。

議長（小永正裕君）

町長。

町長（下村正直君）

最後のご質問にお答えを致します。

もっと具体的な、町民が理解できるような、望んでおるような政策を打ち出して、それを示すことができるかということですが。

まあ1つ、観光の部分でございますが、観光の分野というのは非常に地域経済にとって、これから重要な部分であることは認識しております。ただ私、いつも懸念するんですけども、ただ、人がですねこの黒潮町に来てくれさえすれば、いろんなところでわかるんだというふうな、いわば厳しく見れば幻想的な部分も大いに含まれております。そういったところは、どういうことですね、どういう方が来てくれて、どういうこの黒潮町での接し方をしてくれたりした場合に、地元でどれだけの経済効果があるのかということも、もっと具体的に分析してですね取り組んでいくべきじゃないかなと思っております。

それにつきましては、まあ町内の宿泊施設等の経営の経済という面も当然ありますけども、やはり一次産業の衰退する中でですね、地域におけるグリーンツーリズムとかブルーツーリズム、これはそういう言葉で言いますと、非常にはやりというような印象を受けがちですけども、これを着実に地域経済に結び付けていくという取り組みが必要であろうかというふうに思っております。

まあ、そういった意味で大変厳しいご質問を受けましたけども、住民に具体的に希望が持てるようなビジョンを、町の方向性を示すということについて、私の、これから出馬するとすれば、それが最大の課題ということは、議員の指摘で再度強い思いを致しておりますので、これから、そういった意味でしっかりとした考えを町民に示していくということに努めたいと思います。